
s p y school (スパイスクール

零夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

spy school (スパイスクール)

【Nコード】

N4634BA

【作者名】

零夜

【あらすじ】

スパイだけが通うことを許された学園に。別に行きたくもないし。興味もなく。行く気がまったくない。少年が強制で通わされていた。その学園の規則は大変めずらしく。かつ。過酷な物だった。

コレはそんな不幸新人スパイとその仲間達の。過酷な物語である。なお、一部 18禁、て、言うかほぼだが、18禁の部分が。

ちょこちよあります。ご了承とご理解とご協力をうん？協力何の協力だ？とりあえず。理解のうえ、この過酷なストーリーをお楽しみください。なお。アップが遅い可能性があります、必ず。アッ

プしますので。
ご了承くださいます。

システム および。体罰の紹介、

俺の名は、1川浪 かわなみ ただし 忠

いいか!! 間違えるなよ!! 忠だ!! けして、ちゅうや!! まことなどと言う名前ではない!!

いま（へえ・・・こいつ。中って言うんだ。変な名前!!）とか!!（まこと？誰お前・・・は？しらねえー氏

とか思った奴前に出る。修正してやる!!! 俺は、この学園の新人スパイだ。

システムについて話そう。

この学園。スパイスクールは、市民や子供や。恋人などにはぜええええええったいに!! 知られてはならない!! 知られた場合は、速、射殺だ。そして、男ならだれしもが、気になる恋だが!!

市民との恋は、校則により公開射殺。市民との過激な夜、または、デートなどしても速射殺だ!!!

許されるのは、スパイ同士、なら。どんな所へデートへ行っても。どんな過激な夜をすごしたりしても!! 上は一切の手をださない。だが・・・同性愛と言う・・・禁断の恋は、射殺ではなく。一番きついもの。

爪弾きをクラスのみんなからうける。爪弾きは、過酷だ。教室に入った瞬間「うわぁ・・・爪だ。爪がきたぁゝきも。」ってことになる。そして、この学園は、勉強のレベルが上がると成績も上がるようにいい成績を残せば、その分だけ。過酷で残虐な任務が与えられる。失敗の場合。射殺、又はは、存在しない。

そんな過酷過ぎる学園に俺は、親と言う。一流スパイによって。通わされている。

以上。

では、ファーストミッションに向かう!!

Sクラス女スパイ。(前書き)

俺は、新人スパイだが、最初から、入っていたと言う。訳ではない。そんな俺の強制で通うはめになった。日を思い出す．．
あれは、寒い冬。あたり一面クリスマスと言う時期だった

Sクラス女スパイ。

俺の通うはめとなった。日のことを話そう。

あれは、クリスマスシーズンの日にさかのぼる・・・

忠「ふう・・・そろそろ。クリスマスか・・・また一人か・・・」

当時の俺は、彼女一人すら居ない。なので。

毎日毎日毎日毎日　そして毎日。

「リア獣爆発しろ!!」　と言うようなもやっばい感情を抱きながらも。

一人暮らしを楽しんでいた。

「さてと悩んでもしょうがない。一人クリスマスの用意でもするか・・・」

いやあ。彼女なんていらねえよな!! うん。かねなくなるし。

面倒なんだよなあゝあはは、俺の考えは、あたってるんだ!!」

「ねえねえ今年どうする?」「そうだなあゝ」

「当たってるんだ!」

「今年はどうするんだ?」「そうだなあゝ俺んちでクリスマスパーティー」

「いいねそれ!!」

「当たってるんだ・・・」

「なあ・・・今年、どうするんだ?」「そうだな。夜景でもいいこう」

「今からか?」「ああ　嫌か?」

「ついていく」

「あああああああああああああああ!!!!!!!!!!!!!!」

俺は今年も一人かよおおおおおおおおおおおおお!!!!!!!!!!
ちくしよおおおおおおお!!!!!!!!!!」

「目標を発見、これより確保に移る」

「目標に見つからず。速やかに回収せよ」

「I understand（了解する）」

忠「うん？なんだ？う、うわああ！！！」

「騒がないでくれますか？できれば殺しはしたくない．．．周りの市民に銃声で見つかるので」

「ほお？俺とやるってのか？」

「そうですか．．．仕方ありませんね。場所を変えます。」

「なんでわざわざ？」

「スパイは市民に見つかっては、射殺なので。」

「おい。李下 情報漏れは射殺につながるぞ？」

李下「せざる終えませんでした。いや．．．どうせ貴方達も、射殺する気があって。私を任務に出したのでは？」

「．．．」

李下「回収任務を続行します」

忠「来いよ？」

李下「避けられませんか？」

忠「それはやってみないと？」

李下「はああ！！」

俺は、俺の頭近くに上げられた足を俺の足でカバーする足をカバーされ。痛みを感じる。この李下と言う女に俺は、女が嫌いなため。力いっぱい。肩に蹴りを入れる

李下「くっ．．．まだです」

忠「来いよ？」

今度は、右手だ。右手は真っ直ぐ俺の腹に向かって突き出てくるが。腹をパンチする時は。体型が前のめりになる。

だから俺は、その前のめりになった。女のおごに膝蹴り。

李下「ぐふっ！！仕方ありませんね．．．ナイフを使用します貴方も使ってください」

俺は、前に投げられた。ナイフを掴み取ると。

李下と言う女の聞き手と思われる。右手に向かっていく

李下「狙いは．．．私の腹？ならば」

忠「ちげえーよ!!」

李下「なに？右手？　ぐああ!!」

相手の右手から血痕が流れ出す・

そして、俺は、手の痛みに顔を曇らせている隙に。奴の首までナイフを持っていく

李下「なに？うっ・」

バタツ・

俺は、腹に蹴りを決め。

痛みにうづく李下を。気絶させた。

仰向けに倒すと。抵抗できる手と足があるので。

俺は、うつ伏せに倒し。奴の手と。足を。固める。

そしてナイフを二つとり首元に持っていく

忠「おいおい？もお立つなよ？俺、殺しちまうかも知れねえからさ・」

李下「貴方は・何者なのですか？」

忠「ただの喧嘩嫌いだけど。リア獣に嫉妬する。大学生だ。」

李下「な・なるほど。貴方は、Sクラスの私を倒した。止めを刺しなさい。

このままでは、身元がばれます」

「はあ？しらねえよ」

「どう言うことですか？」

「身元がどこかしらねえが。俺を回収しに着たんだろ？しろよ」

「良いんですね？貴方、名前は？」

「俺は、川浪　忠。お前は？」

「おい情報の漏れは」

「破られた以上、もらすしかありません。

私の名は、1^{かがみや}鏡治　李下^{りか}スパイ学園の・・エースです」

「その学園なら、聞いたことある。　お前、　川浪　信条って、名前。知ってっか？」

「はい。あの歴代のトリプルエス　スパイ。川浪　信条ですね。ま

の生徒が。お嬢様、お坊ちゃまで

しかもひy好きで。可愛い子しかいません。しかも皆、ペロペロ好きです。私は、攻められるの好きですが．．」

「お前は、Mですか！！！」

李下「エムではありません。ド　がつきます。だって私を突きまわす。男のあの速さ．．ああゝ☆
なんともいえません．．．」

「ドドドドドドドドドドエムだな。」

李下「それより。どうします？今夜ですか？それとも今から、欲求を、私で満たしますか？」

読者のみなさんすいません．．

この物語は、少々．．いや、過剰なR－18が含まれております嫌いな方は速やかに読むのをやめましょう！！！！

忠「それより、俺を、スパイ学園に入れに着たんだろう？」

李下「入れ．．．」

「違う！！」

「そのとおりです。では行きましょう。」

そんなこんなで俺は、この変体エロティックお嬢様と学園生活を共にすることとなりました．．

Sクラス女スパイ。(後書き)

最初から．．飛ばしてみました．．
忠君は、どうなるんでしょう？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4634ba/>

s p y school （スパイスクール）

2012年1月13日19時52分発行